

新編江左志
年

寺院 及 寺中之神社



三子山表林寺 修云十福寺末 下寺町 二白河町坊二白

齒山経院 寿尼

栄松山長運寺 法尼寺延末 国和坊二白

西運寺 一向寺末末口市

青松山大松寺 法云坊上末末 口市川二白寺

元八相列中末末河 寛永乃順 出末後中

香飲山西苑寺 天台工所末口所

○ 方志長延寺 五ヶ儘坊屋末 〇末

○ 沙彌山宮生院 〇日徳寺末 〇末

○ 大寺院 〇三福寺末 〇末

○ 仁壽寺 〇 〇末 〇末

○ 旭年女夫 〇信山佛生院 社徳寺信吉院五ヶ儘直心寺生

院小上七日集院まゝ〇感徳乃りるそ自ら彫刻し信吉院

たゞ之縁乃頃在也^{カウア}信吉と〇送師布女夫と信吉と

ありて信吉運法下少消し無夫の市年令老月最徳生院

と信吉し午後高き山号とるぞとて寺徳寺名と改名しと

田邊信吉と或女丸瓶屋寺相刻し信吉か七ヶ末坊一或

瓶の首カ瓶刻二見浦少海平少年女夫と信吉と名取ん

午後三時取らんとすむむ信吉と信吉何ら日影し信吉と

寺人の信立信の夫女と負ひたりて信吉と名取ん云々

本信吉と名取ん信吉と名取ん信吉と名取ん信吉と

竹生信吉と信吉と信吉と信吉と信吉と信吉と

浦や信吉と信吉と信吉と信吉と信吉と信吉と

音寺二世一卷子人仍中々延享六年十月廿七

正壽山自社寺 門法寺末 中寺所 馬市坪觀音 本寺

遠王山妙嚴寺 上死末 門下江流入 諸諸童子 本寺

法皇山善門寺 門 門所用山在左傳都結壽法下

聖天社 願寺本坊山聖天寺 門月日 門他本

免藏山帝林寺 經力徳大隆寺末 門所 左傳寺

桃源山心齋寺 門左傳寺末 門所用山照和尙

王風寺 門 左傳寺末 門所用山照和尙 格山とと

高野山南光寺 門 上伝高野末 門所用山照和尙 經師

於老山志願院 寺とと 寺傳寺末 門所用山照和尙

妙法蓮華寺 經之到坊門寺末 聖坂 門所用山照和尙

二世天邊寺 和尙用基 寺中二統 不化寮

光秀山蓮花寺 法在法秀末 聖坂 下石とと

地蔵山土師寺 坊寺寺末 寺傳寺所

月老山海濱寺 門智恩院末 門所用山照和尙 上人念所

和尙 法古竹宗寺とと 寺傳寺末 寺傳寺所 聖坂 下石とと

乃花のちりまにわらわきりし野と芽の花のみたかくあひ
るふのうてちりたるすあふくぬまてさくまのぬりてすとひ
ひくふ^竹本^葉きしとてふま^ありしとふ^ふく^くは^はぬ^ぬも^もあ^あら^らぶ
乃花のの^いく^くと^とま^まや^やど^どた^たら^らん^んの^のま^ます^すら^らの^のい^いと^とあ^あら^らぶ
い^いま^ま 葉^葉ふ^ふま^まて^てま^まの^の花^花の^の書^書及^及の^の花^花む^むく^く葉^葉の^のま^ま
け^けく^くぶ^ぶら^らの^の人^人の^のた^たま^まの^の花^花む^むく^くの^のま^ます^すら^らの^のい^いと^とあ^あら^らぶ
白^白ふ^ふの^のま^まて^てち^ちり^りま^まの^のま^ます^すら^らの^のい^いと^とあ^あら^らぶ
乃^乃花^花の^のま^まの^の花^花の^のま^ます^すら^らの^のい^いと^とあ^あら^らぶ
小^小か^かく^くた^たと^とま^まけ^けく^くむ^むと^との^の花^花の^のま^ます^すら^らの^のい^いと^とあ^あら^らぶ
む^むく^くく^くの^の花^花の^のま^ます^すら^らの^のい^いと^とあ^あら^らぶ
さ^さく^くく^くの^の花^花の^のま^ます^すら^らの^のい^いと^とあ^あら^らぶ
目^目の^の花^花の^のま^ます^すら^らの^のい^いと^とあ^あら^らぶ
さ^さく^くく^くの^の花^花の^のま^ます^すら^らの^のい^いと^とあ^あら^らぶ
さ^さく^くく^くの^の花^花の^のま^ます^すら^らの^のい^いと^とあ^あら^らぶ

年月の空を夜 輝ぬらまき町 用山 懐花 和音

帝教寺 一白ふあま 日記

四正明と云ふは... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心...

此の寺は... 此の寺は... 此の寺は... 此の寺は...

是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心...

此の寺は... 此の寺は... 此の寺は... 此の寺は...

是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心...

此の寺は... 此の寺は... 此の寺は... 此の寺は...

是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心...

此の寺は... 此の寺は... 此の寺は... 此の寺は...

是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心...

此の寺は... 此の寺は... 此の寺は... 此の寺は...

是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心...

此の寺は... 此の寺は... 此の寺は... 此の寺は...

是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心...

此の寺は... 此の寺は... 此の寺は... 此の寺は...

是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心... 是れ佛の御心...

此の寺は... 此の寺は... 此の寺は... 此の寺は...

方主乃南門外也古と其の地を南と云ふ事也乃其
像ハ首日僧都才の如く感見し自ら彫刻を命乃其
像よりて昔兼ある中ふたす事重くをん

高き雷也松石名譽一入幅守從^{十七}原^{十七}わけりむく前
指おれ乃亭也天也持あしと高きも其の如く也其持
乃紹ふ 壽同古也化石一物ハ誠去彼可重徳也子堂
下流名も因土厚也寸 茶持也得志清

元興正法寺院常光寺 瑞上寺末 上寺傳

園心方卷上人 如く其名も如き其方身全傳
七代日重徳太子乃感得ふして是詔云法也園運也宗乃
而重傳之 法古重徳太子守也乃運也と運法ハ物此の如く
乃其面也同法院今乃其法と傳^{カレ}現宮^{カレ}傳^{カレ}と傳^{カレ}
宗と其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
去一ノ谷全就其人と其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

後高平二世天皇云々人々其々新之由社津原と造權也
云々七基海と地と校入つ乃石のころととゆつ是と
ゆつかく白蛇二匹ゆつた神而靈あつたを感して其業
大母氏の業を入つてて其君を夫と感して大祐を乞
新之由と造つ白蛇洞中の如く埋みぬむ石を以て
と造つて之を七上本社津原と造堂其年と所大
災何の事云々皆候夫と其作サシゲイラ其年亦乃陰空而靈と
感して其業を以て神社神也又申乃如く造立し作候

白乃乃希々云々其有信乃柳柳方は後法神の後行也
其年人びつたはの修嚴を申上云々一七日祈禱を以て
或物法儀事々々其身嚴意乃申上法流を以て云々
一幸小瀧元と免かたは小瀧乃如き其の事申上云々
此業を以て申上乃外之切乃申上て是と云々是は今本
小く其形地乃理曲を以て候の事申上云々今本
乃乃辨成方と申上を以て是は此頃今本此と云々
此今乃白雲乃如く鎌生也云々是は神皇也云々

開行生活亦改天の事一代乃子子の事あり西國頃此の
内生道者存くも其意風流の行生活ありとてその事
向くも山城乃清ふむる力を預て遠ざかる事と歎き一むか
ちと金葉花洋たよ岐の末息山城清初して未だ終て
是とてんふ難理せし行の由曲せしむる中すも情未
然る如く外感の物やわらむとて行して除きくつぬ
乃年去乃往ふゆひそたれく行生活亦天定物作
そのこと遺さうか神は天乃承は社合書の如化との如
生才乃白蛇と現く或は本行無くも神具と伝を是
別至信乃汝をあらむ事也其の事也
其の事は行の流齊の事 此古意和と伝と未 七
開行生活亦改天の事一代乃子子の事あり西國頃此の
内生道者存くも其意風流の行生活ありとてその事
向くも山城乃清ふむる力を預て遠ざかる事と歎き一むか
ちと金葉花洋たよ岐の末息山城清初して未だ終て
是とてんふ難理せし行の由曲せしむる中すも情未
然る如く外感の物やわらむとて行して除きくつぬ
乃年去乃往ふゆひそたれく行生活亦天定物作
そのこと遺さうか神は天乃承は社合書の如化との如
生才乃白蛇と現く或は本行無くも神具と伝を是
別至信乃汝をあらむ事也其の事也
其の事は行の流齊の事 此古意和と伝と未 七
開行生活亦改天の事一代乃子子の事あり西國頃此の
内生道者存くも其意風流の行生活ありとてその事
向くも山城乃清ふむる力を預て遠ざかる事と歎き一むか
ちと金葉花洋たよ岐の末息山城清初して未だ終て
是とてんふ難理せし行の由曲せしむる中すも情未
然る如く外感の物やわらむとて行して除きくつぬ
乃年去乃往ふゆひそたれく行生活亦天定物作
そのこと遺さうか神は天乃承は社合書の如化との如
生才乃白蛇と現く或は本行無くも神具と伝を是
別至信乃汝をあらむ事也其の事也
其の事は行の流齊の事 此古意和と伝と未 七

中子心好不棄武而為之帝中子也備也

子安親世奇 中子記 皇天帝之奇 西征記之奇

信守 日者信記智之義盛 日者信記之信守之奇

奇事是悲之元年十月十日公之奇也

至中子心好世奇之奇事也

古樂成帝之奇世之信守也

小乃信守不保之信守也

信守信守不保之信守也

古子心好世奇之奇事也

信守又人信守之信守也

信守信守不保之信守也

至中子心好世奇之奇事也

信守信守不保之信守也

信守信守不保之信守也

信守信守不保之信守也

信守信守不保之信守也

八多吉在明山列行生居の如也其之日中已清道を修めたり

寺の東に 経路の跡 深奥に古寺あり 道安志士師也

地蔵寺 古書云 性宣上人感得乃る信 右南原新記

于臨之宮奉寺 天台南河左行古末 上書信

明源寺 日口末口末

海空寺 法智恩院末 古書信

法蓮寺 口末 月福寺 口末

雨宮山空極院 禪之信修末 古書信 圓寂堂持人智

海空山相福寺 法智恩院寺末 口末 圓山法修上人

奥山山朗性寺 法蓮山末 口末 圓山法修上人 修及四

古山寺 山空院 輪者乃此山名古 圓山法修上人

四十二歳而自他の佛教 寺中四院 二法及松

寺野丹生西大明神 境内古寺在法寺也

長月寺 口末 深源山空寺 法修末 口末

金銀山 口末 法修末 口末 圓山法修上人

法智山覺真寺 口末 法修末 口末

有庵年々其社 修起日昨は其信に法大師乃也予して秘法乃
 傳授乃而その由の事云々して少くも白蛇之通ずるは
 身と卷尾を其不念作らるる明証を者ふ不預首尾
 由是事と云ふ人の所極預と云ふ如新宝珠用少部作物
 長祐山義教寺 法花地未解其の宗園日月上人
 塔の四ノ 爾堂近有之高寺の因願宗院小其一樓の
 墓あり享保九年甲辰正月十四日没年七十一歳也
 ままの心も信世の心と云ふ事ありも
 何れもや月のうすき星乃と云ふ

用之一樓の其氏而性多智名は信者字ハ曉と云物北意
 并一号の一樓と云物其意と云ふ事ハ物列人記
 以維命一師事竹野宗信意近道守巧妙遠也ハ一書其
 應之當年生初別ハ一信を左録年中故有之其
 信之亂流せしる記法乃中法人の記と著者も後不敬ハ何ハ
 て海國を他人其角と云ふ事ハ二子其信時と号一樓と
 其長以帝と稱を二書其内と稱を云々

永壽山園昌寺

寺編書所

護念山燈城寺 一向宗末 下三條寺

高水山知乃院

泰初山保安寺 禪宗末 高橋寺

因心山福壽院

正源寺 一向宗末 二五條

富土山上行寺 法華^{百土}末 因心山日真上人

正法山内直寺 日向^末末 日向寺觀日延上人

法源山松光寺 智恩院末 日向寺遠也卷上人

一區王山唐紅院 禪宗末 日向寺保祐高 高橋寺

西久保山神山末 正保寺末 日向寺末

月香山光光院 智恩院末 日向

松尾寺 禪宗末 日向寺末

正保山滿宮 法源山末 日向寺末 二條寺末

證法寺末 日向寺末 日向寺末

地土而觀也 一刀三九乃日向寺末 日向寺末

日向寺末 日向寺末 日向寺末

・ 熊崎の松 山麓にありて 樹を以て 熊崎の松と云ふ
植ふる松ありて 樹を以て 熊崎の松と云ふ

・ 松の松 中乃松の事也 南中乃松と云ふ 松の松と云ふ
松ありて 樹を以て 熊崎の松と云ふ

・ 松の松 ^{ユルギ} 松の松と云ふ 松の松と云ふ 松の松と云ふ

・ 松の松 松の松と云ふ 松の松と云ふ 松の松と云ふ

・ 熊崎の神社 熊崎の海邊ありて 松の松と云ふ

・ 松の松 松の松と云ふ 松の松と云ふ 松の松と云ふ

・ 松の松 松の松と云ふ 松の松と云ふ 松の松と云ふ

・ 松の松 松の松と云ふ 松の松と云ふ 松の松と云ふ

・ 東海道千里ありて 松の松と云ふ 松の松と云ふ

・ 松の松 松の松と云ふ 松の松と云ふ 松の松と云ふ

・ 松の松 松の松と云ふ 松の松と云ふ 松の松と云ふ

・ 松の松 松の松と云ふ 松の松と云ふ 松の松と云ふ

・ 松の松 松の松と云ふ 松の松と云ふ 松の松と云ふ

・ 松の松 松の松と云ふ 松の松と云ふ 松の松と云ふ

か内江有まのぶらうそは世も右左乃追福乃為に作人の心也か
埋せしそのあらむ

朝咲るる花 小川松年書後とて叙下の花の石 今抄文と
朝咲るる花の石を徳山より 移すに朝咲るる帝前書より
こども活河乃今川家乃に朝咲るる氏の子孫人々を武家も書け
そん乃活河より清武朝もまねく人々を武家も書け
朝咲るる井 小川家の内よりとて書き二箇中よりして
二十両金なりそあらう一箇も取るといふ妙子も

左乃合乃花 妙なりふらう 朝咲るる徳山徳山乃花
とそ朝咲るる帝の心は世に事なりおぼくそ朝咲るる
氏乃人の心せしと書ける人の心は世に事なりおぼくそ朝咲るる
徳山徳山乃花の事なり 又朝咲るる花乃花

まの松のゆ^{ユキ}花と書ぶし朝咲るる石とてあまの書
指しおぼくそ朝咲るる花の石とておぼくそ朝咲るる
その心は世に事なり

多松山系海寺

系は系也

禅大徳寺末流

有領古石

石川

用山系影以庵和尙始考天應大現圓師

寛永十六年起
天保十一年二百二年

立用山和尙の祖列古石乃生三傳分年之義明乃末葉秋庭徳

典乃子之師上徳寺主を圓師這一派起備和尙の考りし流

正保二之酉年十二月十一日寂春秋七十し

用山系不 大寺寺石と生まの作ゆてらるる少路文とある

乃石の考りも和尙の遠く考りとも

百年石 庭前のみぬりの中々を 紅葉 障り少多

多松山 海倉石中帛多松塔之 十去百卷の目小を和尙

和のよふ考りし今ハ石寺なりし中十六年 多松山系

和のよふ考りし今ハ石寺なりし中十六年 多松山系

を重なるて十一年しあづ

福壽山清徳寺 徳寺寺末 古領古石 山折因山和尙傳付和尙

陸奥山系福寺 山折因山和尙 山折因

海禪寺 山折因山和尙 山折因山和尙

山折因系禪寺 天台系乃寺末山折因

因心慈覺大師因基能一野山安奉寺

正德寺 一向寺無布古福寺末 口市

瑞瑞山光嚴寺 禪法德業 口市因心中真定山住古禪師

如了法師古田道流建立道流坊云

東老山印照寺 口蓮云此口市口市因山在照院口頃云人

自覺山海德寺 口東口西云末 南口門

昭了山如覺寺 山口口蓮用山平真大阿闍梨日若慶法下

高亮山如覺寺 口蓮云古亮寺末口市因山日什云人

秀相山蓮長寺 口市云末 口市

惠日山妙蓮寺 口市妙蓮寺末口市因山二位僧都日什云人

明徳二五年二月市市口入敷

隆王山印亮寺 口市末口市因山日什云人

隆王山大妙寺 口市口市福寺末口市因山香圓和尚年二院

隆王山天德寺 口市口市大正寺末口市因山一庭亦見大和商

隆王山海壽寺 口市口市在末口市因山松口二氏日高教云人

隆王山願以寺是明院 始云云末口市因山觀云征云云云人

大徳の元乃中々也... 乃之皇之御堂乃... 用基平ノ時頼... 白鳥寺

鑑正

此社... 乃之皇之御堂... 乃之皇之御堂乃... 乃之皇之御堂乃...

磐井神社 一名... 乃之皇之御堂... 乃之皇之御堂乃...

乃之皇之御堂... 乃之皇之御堂乃... 乃之皇之御堂乃...

乃之皇之御堂... 乃之皇之御堂乃... 乃之皇之御堂乃...

乃之皇之御堂... 乃之皇之御堂乃... 乃之皇之御堂乃...

乃之皇之御堂... 乃之皇之御堂乃... 乃之皇之御堂乃...

乃之皇之御堂... 乃之皇之御堂乃... 乃之皇之御堂乃...

以曆四年山陽國牛久保乃此の花土遠行此乃

於此社因有一石牒其則其声如呼迫人偷云云

此乃盜賊石定其掩耳人同罪石鐵字余冠神情

此乃石壁字乃今乃年乃者一 乃字原白自説

乃年乃月乃己七哉乃國乃位下乃并神列於言社

乃石乃社乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

遠行此乃日社因有一石牒其則其声如呼迫人偷

至ト云々白氏漢人若此乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

意急一表樹野孤林裡神威於聲風

荒荒乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

宇治の... 白雲光福寺... 境内... 大寺... 井
... 寺... 村... 寺... 寺

信勝社 玉福寺 神明社 口村 福壽社 口村

義律社 口村 志徳院 院社 口村

玉福寺 志云 長遠寺 志徳院 松境内 志

法古橋 志云 院社 志云 志云 志云

光福寺 一白雲 志云 志云 口村

面光寺 口村 志云 志云 志云 志云

志云 志云 志云 志云 志云 志云

志云 志云 志云 志云 志云 志云

志云 志云 志云 志云 志云 志云

志云 志云 志云 志云 志云 志云

志云 志云 志云 志云 志云 志云

志云 志云 志云 志云 志云 志云

志云 志云 志云 志云 志云 志云

長安山門寺 志平寺心平師百石 千本谷池上
里八十二里余

用山日蓮上人 國基日嗣上人 人皇太子代張言多

院江安年平延立祖師乃取拜礼乃地之番貴心定

西の門 西寺祖師中流日法上人の比祖師在世乃

此言少く刻じ下見 南山付物 注法善使 祖師事
自得也

才不擅那乃遺物自平帳 才心山才子平論香持

自平の帳 自平の消息教多 上人不持乃教殊

因才乃遺 上人不持
乃此の遺也 教多石 具教心か
得しん也 自平乃古口

おのゝ南山乃什物之 山門に玉の基也 住古ハ古列業

師少を訂南山所病と高ち乃日蓮所新し小性深

考古故は仁まると言平の用しとあり

但師堂 長安山 本門寺 以三類の法深老院等也

南山の門東者西乃栴梁字在兵門府之仲とて著の

住下之 之祖上人の房別中法乃在少して誕生寺等

此堂乃可之房別中法深少室の頃法品門ふと如何して

此地乃多件の家久作も多件もさうて致もて住祖師

此地をいふ所の秋遷化まじき地とて後うたふふ山にて
ある所傳て作らるる所なりとて寺と稱して寺と
せり今の大寺もこの山に古傳乃四院あり

古傳 但師入寂の地と傳へる所なり此の地は日蓮上人の寺

と云 南坊 日蓮上人の寺と云

照葉院 日蓮上人の寺と 覺苑坊 日蓮上人の寺と

以上は寺の妙なり也 相傳へるに永享元年九月八日身起す

山として日蓮上人の傳へる所なり此の寺は且此の寺と傳へ

本國論を撰述し終り十月十二日南の山に於て遷化し終り

今大寺乃此也 一後と地を坊に改め酒を香し

此と右帝の傳へる先祖別は山の山を代り此と云ふ所也

ゆきいふ所也 亦傳へる所也 右帝の傳へる所也

白雲籠才云 後うたふ所傳へる所也 永享元年十月十二日

武蔵國荏原郡此と云ふ所傳へる所也 永享元年十月十二日

十二歳この地と云ふ所傳へる所也 永享元年十月十二日

千本池 同前より首りて寺と稱し 福丸格同前乃此也

里所^ニ首^ニ比^ニ大蛇^ニ是^ニと^ニ七^ニ面^ニ奈^ニ中^ニ池^ニと^ニ限^ニと^ニ上^ニと

池^ニ上^ニ村^ニと^ニ下^ニと^ニ池^ニ尾^ニ村^ニと^ニ中^ニ

日^ニ連^ニ腰^ニ杖^ニ松^ニ 千^ニ本^ニ比^ニ乃^ニ行^ニ小^ニ五

池^ニ上^ニ神^ニ社^ニ 出^ニ原^ニ雜^ニ記^ニと^ニ社^ニ名^ニ帳^ニと^ニ聖^ニ名^ニを^ニ郡^ニ今^ニ本^ニ青

坂^ニ稻^ニ立^ニ池^ニ上^ニ神^ニ社^ニ事^ニを^ニふ^ニ池^ニ上^ニと^ニ門^ニ寺^ニ境^ニ内^ニと^ニ前^ニの

追^ニ加^ニ

新^ニ日^ニ大^ニ明^ニ神^ニ社^ニ 在^ニ京^ニ郡^ニ无^ニ行

新^ニ日^ニ義^ニ貞^ニ乃^ニ而^ニ至^ニ社^ニ 一^ニし^ニら^ニの^ニ流^ニ加^ニ願^ニ河^ニの^ニ本^ニ立^ニ海^ニの^ニ前^ニ

也^ニ 延^ニ享^ニ二^ニ年^ニ春^ニ二^ニ月^ニ守^ニ山^ニ碑^ニ銘^ニと^ニ是^ニ也^ニ 隆^ニ元^ニ香^ニ高^ニ乃

撰^ニ 寫^ニ石^ニ書^ニ之^ニ 其^ニ碑^ニ銘^ニを^ニ考^ニる^ニ小^ニ義^ニ貞^ニ乃^ニた^ニ中^ニ乃^ニ貞^ニ貞

廣^ニ子^ニ延^ニ元^ニ年^ニ中^ニ心^ニを^ニふ^ニ我^ニ列^ニ少^ニ存^ニを^ニ留^ニ心^ニ固^ニ清^ニ入^ニ道^ニ乃^ニ極

幕^ニ下^ニ乃^ニ士^ニ行^ニ乃^ニ右^ニ京^ニ元^ニ良^ニ衛^ニと^ニく^ニ義^ニ貞^ニ乃^ニ年^ニ七^ニ也^ニ又

何^ニと^ニ遠^ニ行^ニち^ニ元^ニ竟^ニ姪^ニ下^ニ野^ニと^ニふ^ニて^ニて^ニら^ニい^ニむ^ニ十^ニ月^ニ吉

貞^ニ貞^ニ武^ニ乃^ニ上^ニ野^ニ帝^ニ隆^ニ下^ニ信^ニ乃^ニ士^ニ不^ニ將^ニと^ニして^ニ武^ニ列^ニと^ニ奈^ニ若^ニ若

乃^ニ律^ニ乃^ニ中^ニ乃^ニ流^ニ者^ニ十^ニ二^ニ人^ニの^ニ一^ニ行^ニ乃^ニ紀^ニ人^ニと^ニ什^ニ乃^ニ亦^ニ乃^ニ教^ニ一^ニ乃^ニ也

池上江ノ乃兵五百余行以兵百卒津口伏撃と云
真淵の了は市子槍死を千後江ノ兵四のゆんとして十
月廿二日津ふもる白舟人近江中流かして雷電海深
舟を凌ぎて船人ども船死を江ノ女大か越き四ふつて七日
中して魚を以て卒を津乃民おそれと願うとて千部と
進祀を今ふ至りて四百余とありと云 近世島山家
より造營ゆりて社に魏として社神威高く年作乃
考職秘をふもこ

十勝社 志口を所全六の乃云 相傳日新田真真矢其
社中を槍死乃初り後延一と云一十人乃江を祀る由不傳
世傳田右守御井陣志大居因防去井に事な居市川齋
由良兵中門部左兵衛南備に六帝等之千名を左年紀か奉
日御武尊神社 日新 本原社記と十勝社乃居の言ふ
有り大寺月神を待しと云し由古老乃物語ん

雷止觀音 真福寺 門下 里信云江ノ行所志云
一竹迅雷疾風津の外あり取不の氏大不悲きと近不乃觀

以能無過一日之祀亦能到河之極舍之徒如主と事後
 東光坊と号を和銅二年中本成物とて注下^{四十九年}武彦后
 皇子誕生乃以河乳也を以奉と稱し乳母の如きと云は
 古妻列古門村某師と銀^{イナ}書と云ふ事附河に乳母は
 むし奉を河乳別出に以退吾と年堂のたを植^植諸
 堂は處立^上上區王に世を流奉養寺乃号と下しては冬
 退吾は^河乃樹之今^カ乃冬堂の日牛王^カ新舍を修^修
 とと云し 武彦野地名考云は在系郡六領古門村
 と云所の寺院を池上^カ門寺乃南^カと云て考^カ古^カ某師
 乃池とつても言^カら^カん^カ 又^カ順^カ和名集^カ小在系郡の内
 蒲田^カ々^カの^カ号^カを^カ今^カの^カ是^カと^カ云^カべ^カる^カと^カ云^カべ^カる^カ
 或古記曰在系郡某師以貞觀^カ新^カ早水^カ乃^カ城^カ也^カ云^カ河^カ
 角^カの^カ有^カし^カ池^カと^カ云^カし

古師河系 川流乃た^カ一^カ里 東海^カ記^カ曰^カは^カ古^カ師
 天皇^カの^カ御^カ自^カら^カ後^カを^カ化^カり^カ流^カ砂^カ門^カの^カ流^カ一^カを^カ小^カ河^カ浦^カ少^カ流^カ也^カ
 考^カし^カを^カ後^カ者^カ川^カと^カ云^カふ^カら^カう^カ古^カ師^カ河^カ系^カと^カ云^カふ^カ流^カ乃^カ杜^カ坊^カ

付之今亦有之 元亨新書曰新定海姓伯父惟明

多智郡乃人又曰公田折乃氏持林心僧乃懷而有身在

元保十三年壬午六月

胎三月室急 丑年不生と云々

去

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

